# 「海外における科学的手法の現状と展望」 タグチメソッドによる機能のロバストネスの最適化

#### エポックメーキング事例を通して・・・



#### **TRIZ Symposium**

2014年 9月12日(金)

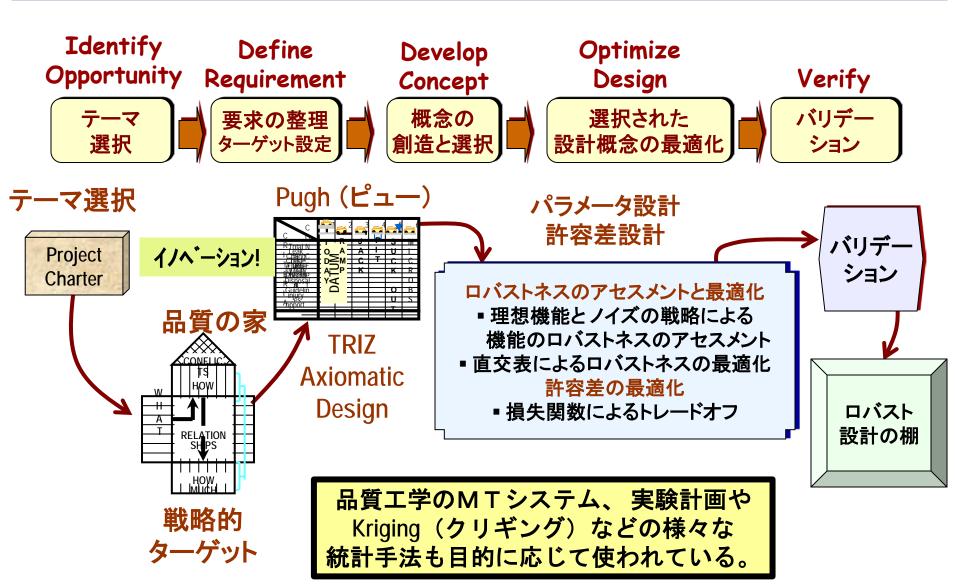
Shin Taguchi (田口伸)

CTO, ASI Consulting Group LLC
President, American Supplier Institute, Inc.
Bingham Farm, Michigan USA
shin.taguchi@asiusa.com



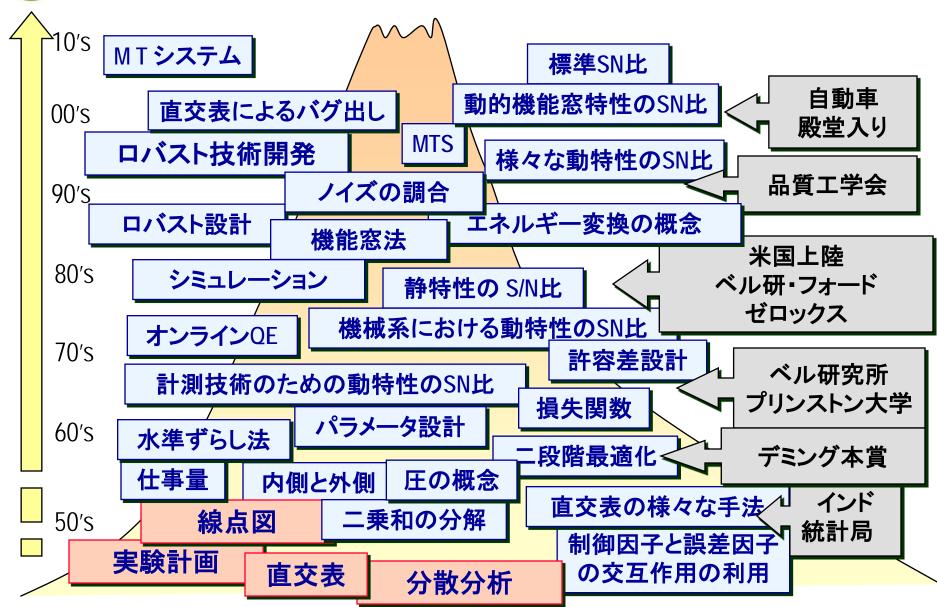
#### DFSS (Design for Six Sigma) のIDDOVプロセスのイメージ

テーマごとに戦略をたてて必要なステップとツールを明確にし、プロジェクトマップを作成する。



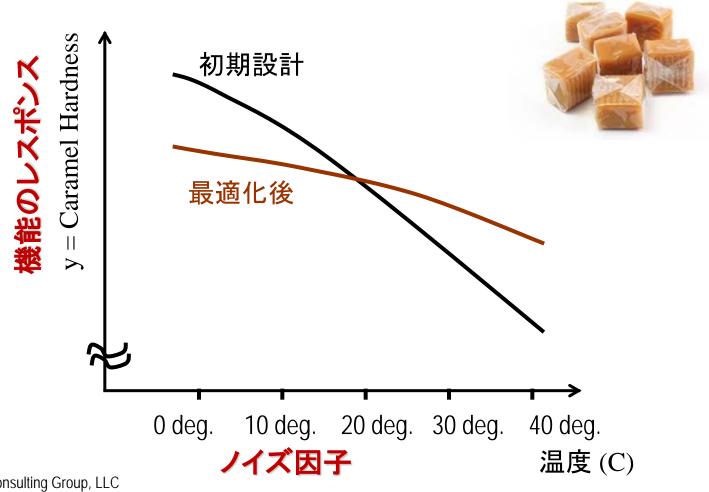


#### タグチメソッドの歴史



#### 1948 Morinaga Company - Caramel Candy Hardness

#### 制御因子とノイズ因子の交互作用を利用する。





#### ノイズが大問題

#### → ノイズに対する対策は4種類しかない!

#### I. 無視する。

#### II. ノイズそのものを制御する。

Example: 標準化、管理図による工程管理、ポカヨケ、

従来の品質保証活動、許容差設計 Etc.

#### III. ノイズの影響を補正する。

Example: フィードバック制御、アダプティブ制御、

エンジン・コントロール、ABS、Etc.

#### IV. ノイズの影響を最小化

Example: ロバストな設計概念の創造

ロバストネスの最適化(パラメータ設計)



#### 1950年代の電気通信研究所(ECL)

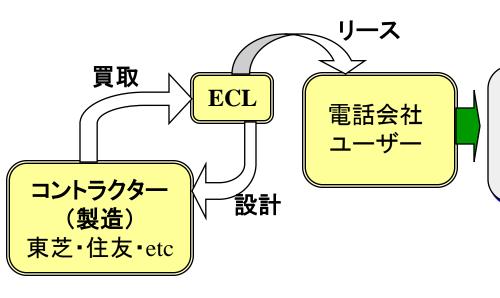
1950年電気通信研究所では、ベル研究所と競合してクロスバー交換機の開発を決める。ドクター・タグチはその年に入所。



	予算	人員	期間	結果
ベル研	50	5	7年	開発失敗
通研	1	1	6年	要求満たす



- ECLはタグチメソッドの基礎的なアイデアを応用。これが現在ロバスト・エンジニアリング(品質工学)として身を結んでいる。
- ・ベル研究所は精密なモデルの 追求と故障・不具合の因果関係の研究に重点を置く。



リーシングのため 100% 補償

- 交換機40年間
- 電話機15年間

設計段階で いかに信頼性を 確保するかが 勝負!



現在のロバスト・エンジニアリング の基本的概念が誕生

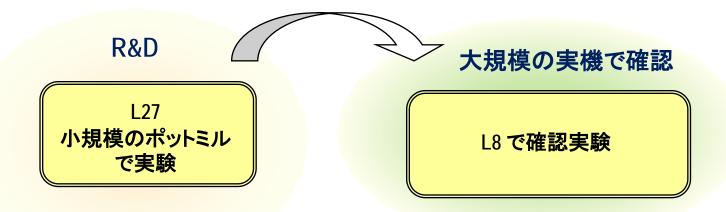


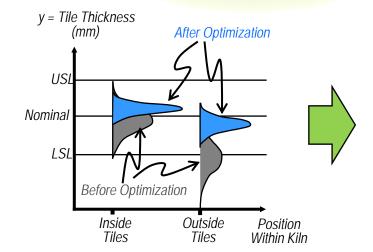
#### 1953 伊奈製陶 (INAX) Tile Manufacturing Tunnel Kiln

#### 小規模実験で再現性を得る

#### バラつきを減らせばスピードアップができる





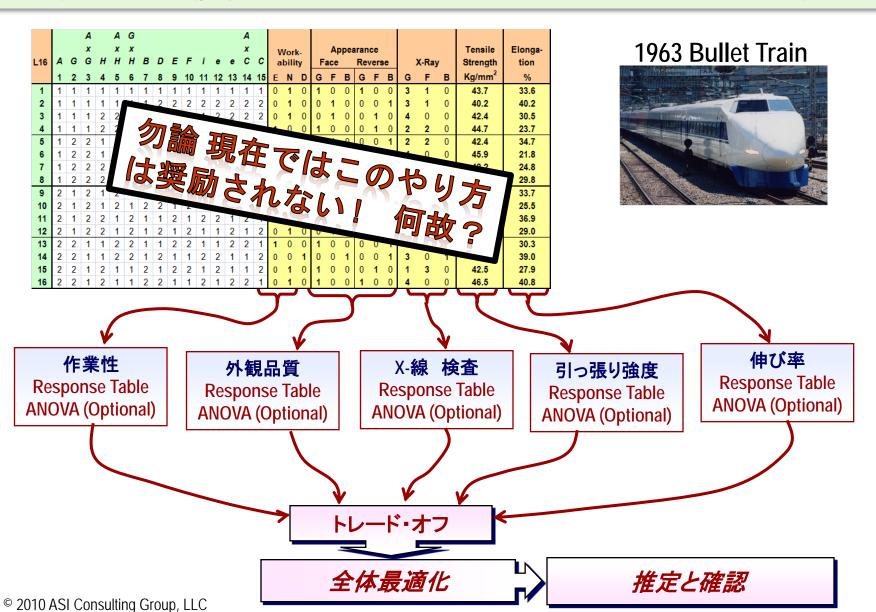


カートのスピード アップを達成!



#### 1959 鉄道車両のボディの溶接

#### L16 の実験計画で複数の要求を測りトレードオフによるバランスのとれた最適化



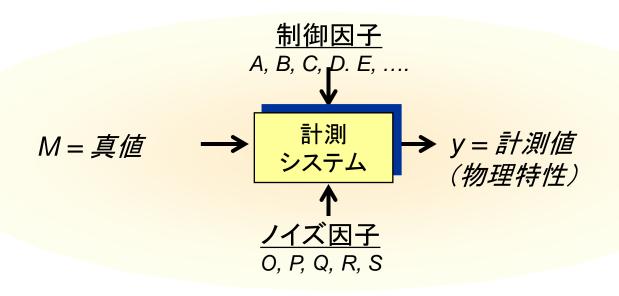


#### 1960年代から 計量研究所、他

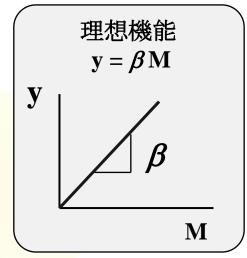
#### 通商産業省工業技術院 計量研究所 (当時)



2段階最適化







#### 2段階最適化

Step-1: **機能のバラツキの最小化** 

Step-2: β を1.000 に調整



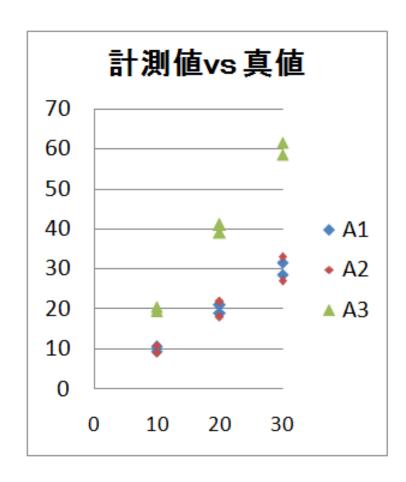
# ここでクイズを一つ!

ヘルスメータの開発中の機能性評価で以下のデータを得た

信号Mは真値、Nは調合誤差因子、A1, A2, A3 でどれが一番ロバストか示せ、またその理由を述べよ。

	M1=1	I0 Kg	M2=	=20Kg	M3=30Kg			
	N1	N2	N1	N2	N1 N2			
A1	9.9	10.1	19.8	20.2	29.7	30.3		
A2	9.8	10.2	19.6	20.4	29.4	30.6		
<b>A</b> 3	19.9	20.1	39.8	40.2	59.7	60.3		

答 \_\_\_\_\_





#### 機能を測る

#### マルバツ試験

#### SN比は機能の ロバストネスのモノサシ

#### Aさんの回答

正解

	True	False
True	100%	0%
False	0%	100%

 $S/N = +\infty dB$ 

100点

Bさんの回答

正解

	True	False
True	50%	50%
False	50%	50%

 $S/N = -\infty dB$ 

Cさんの回答

正解

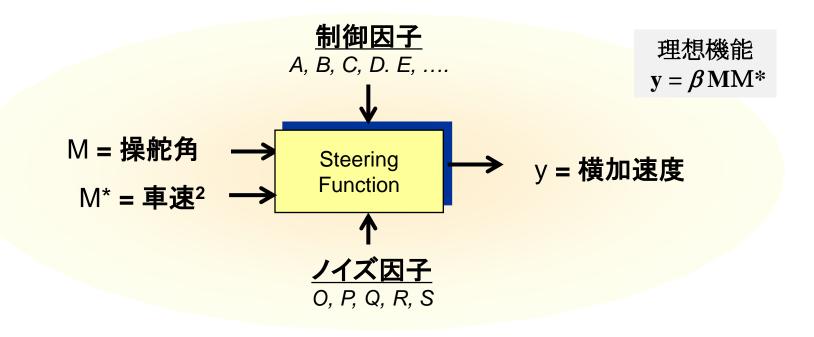
	True	False
True	0%	100%
False	100%	0%

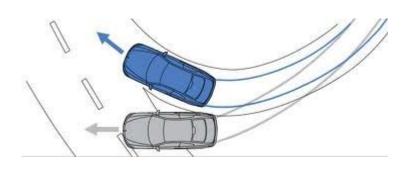
 $S/N = +\infty dB$  100



#### 1978 いすぶのトラックの操縦性

#### 機械系における最初の理想機能によるSN比





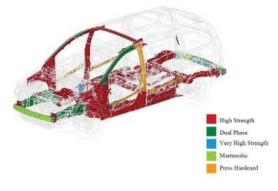
当時は旋回半径を出力特性とし、車速は標示因子にしていた。



#### 1979 トヨタ車体 ーバンボディ

#### 機能の最適化でコスト・重量の低減

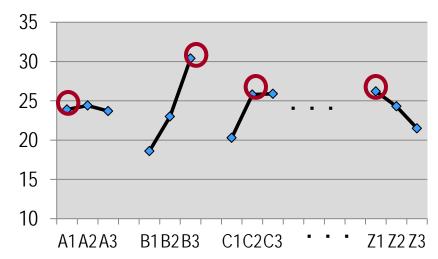
制御因子を戦略的に使う



#### 制御因子と水準

	Level-1	Level-2	Level-3
部品-A	薄い	現行	厚い
部品-B	軽い	現行	重い
部品C	薄い	現行	厚い
::		::	::
部品- Z	安価	現行	高価

S/N



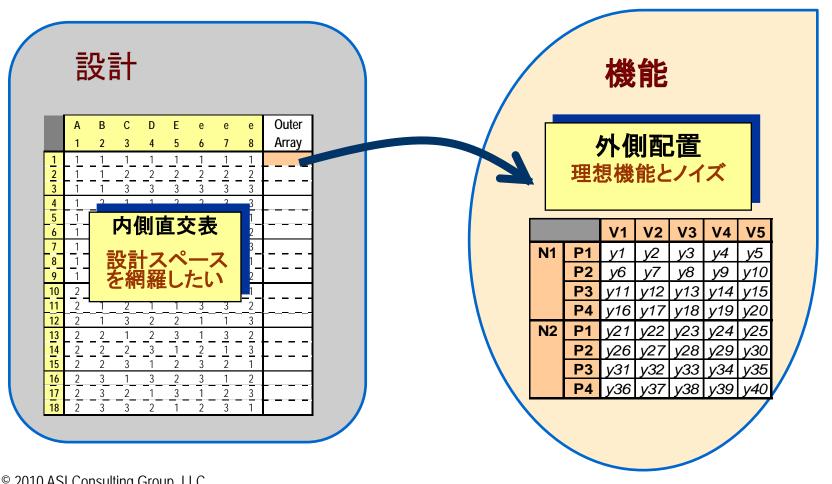
機能(衝突性能)の 理想機能の SN 比

性能・コスト・重量すべての改善にチャレンジ!



#### 内側の直交表に設計スペース、 外側でノイズを振って機能を測る

制御因子を直交表に割り付け、直交表の設計条件それぞれで、 ノイズを振って理想機能を測りロバストネスをSN比で評価する!





# 1980 米国上陸



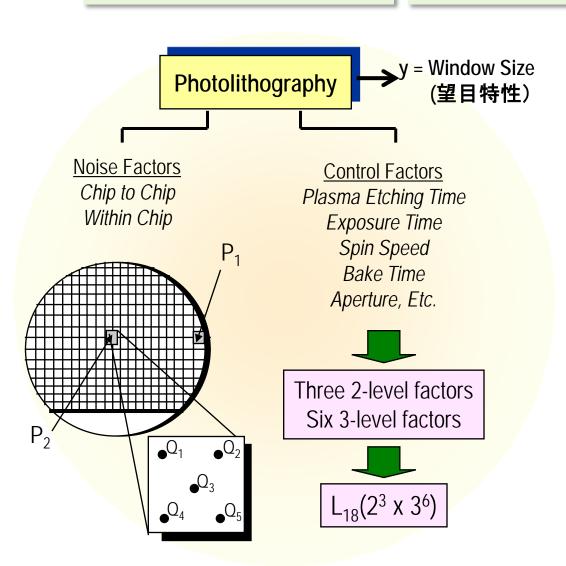
デミング博士 呉玉印氏 田口玄一博士 1979年デミング博士の自宅にて、撮影

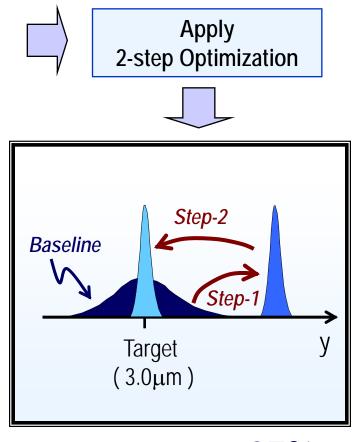


#### 1980 年ベル研究所の256kのフォトリソグラフィー

#### 最適化 VS. モデリング

#### 2段階最適化





Yield: 33% → **87%** 

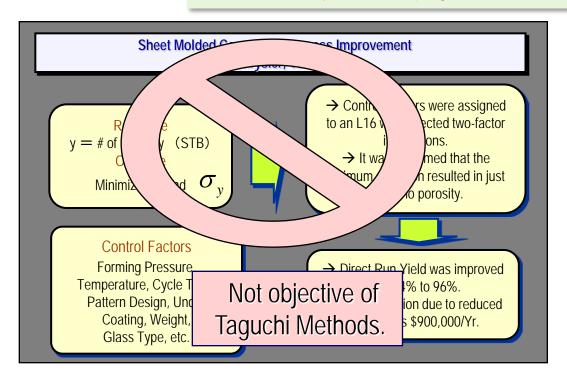
Bell Systems Technical Journal May 2003



#### 1985 クライスラーの内装シートモールド

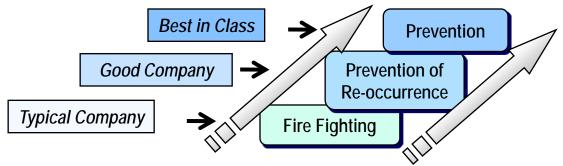
手直しコスト低減 \$900k/年 達成

#### 火消し活動から未然防止へ・・・



I have a big problem with my son, Shin.
He helps his clients to fire fight.
I am not interested in Fire-Fighting.
Please do not use
Taguchi Methods for Fire Fighting

G. Taguchi, 1988







#### 1988 ASI Symposium のテーマ:

# TO GET "QUALITY", DON'T MEASURE "QUALITY"!



要求や品質を測るのではなく、機能を測って最適化をする!



### アセスメント =機能のロバストネスの評価

#### "アセスメント"と"バリデーション"の違い

を認識することが重要!

まずは "Robust Assessment" 最後に "Validate"

たかだか2時間から1日 で結果がでるテスト

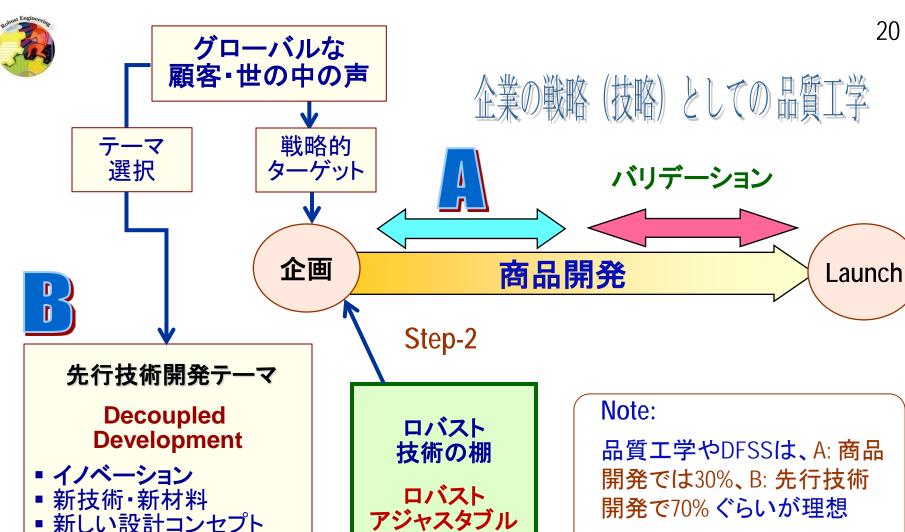
その技術要素や設計概念の機能のロバストネスを評価する。

ノイズを振って理想機能を測りSN比で ロバストネスのアセスメントする。

アセスメントは時間がかからないため、 開発期間が短縮できる。

その上に、ロバストネスを評価し最適化しているため、信頼性に自信が持てる。 バリデーションは一回が理想。 心配だから、できるなら 時間をかけたい

- 開発された製品が様々な要求を満たしているかチェックするための試験。
- 何か見逃していないか、とことんチェック。
  - さらなる改善も試みる



スケーラブル

Step-1

目的は開発期間の大幅な短 縮。商品開発でやっていると 開発期間短縮には無理があ る。そのためには、必要なら 組織替えをする。

- 新しい設計コンセプト
- 共通化
- 再利用
- ベスト・プラクティス
- ■-デザイン・ガイドライン
- 製造技術開発



#### 1990 硬さ標準の開発 アサヒ技研

小企業が 業界最高レベルを達成







#### 80年代のゼロックスの紙送り機構

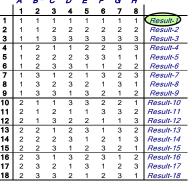
機能窓特性

モグラ叩きからの脱却

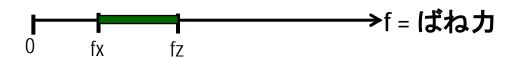
2時間でできるロバストネスのアセスメント

ノイズの調合





→ ロバストネスのアセスメント



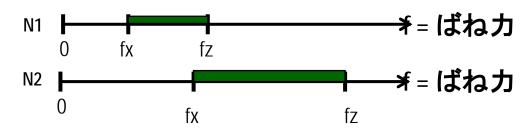
fx = 3枚続けて1枚づつ送る最小ばね力

fz = 重送などばねが強すぎて起きる不具合を始める最小ばねカ

#### <u>ノイズの調合</u>

N1 = ミスフィードしやすいノイズ条件 = ツルツルで重い紙 + 磨耗したローラ + 高湿度 N2 = 重送しやすいノイズ条件 = 粗い表面で軽い紙 + 新しいローラー + 低湿度

#### ノイズを振った機能窓特性



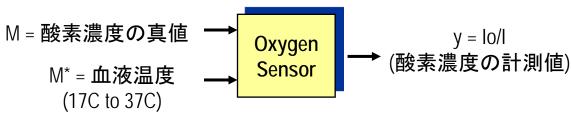
#### 2段階最適化

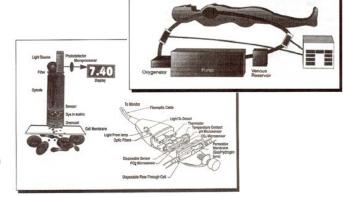
Step-1: 窓の最大化 Step-2: ばね力調整



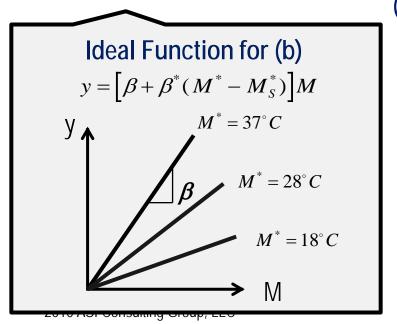
#### 1993 3Mの酸素センサー

#### 理想機能と補正の機能の同時最適化





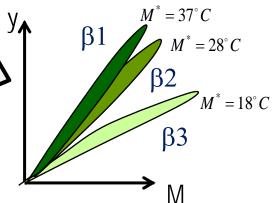
- (a) M\* をノイズとする
- (b) M\* は信号因子 補正ができる上に温度の影響の物理が解っている



(c) M\* は標示因子 補正ができるが 温度の影響の物理は不明だが、各温度に おける β がわかれば補正のための ルックアップテーブルを作成できる。

#### Ideal Function for (c)

As long as values of β1, β2, β3 are known, the effect of temperature can be compensate.

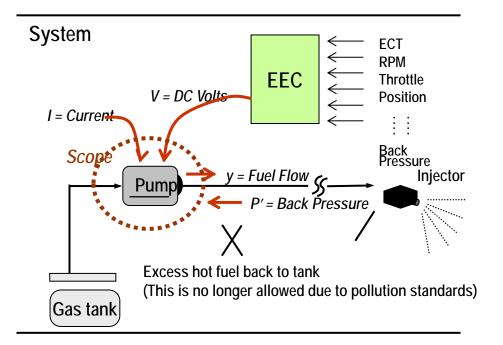




#### 1993 Ford 燃料ポンプ

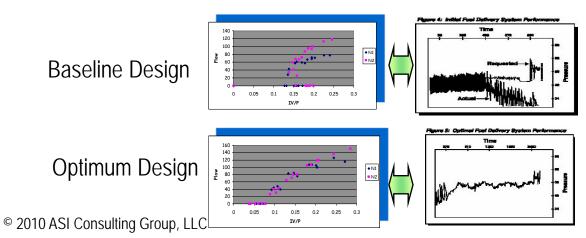
#### 理想機能と補正の機能の同時最適化





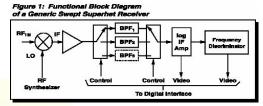
# Modulation Freq., Assembly Type Motor Design, Valve Design Mounting Angle, Etc. Signal M = I V/P Fuel Pump Response y = Fuel Flow Noise Factors Fuel Temperature, Fuel Type Tank Pressure, Pump Wear

Driving Conditions, Mfg. Variation, Etc.



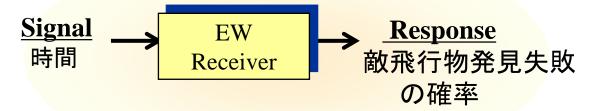


#### 1988 ITT EW レシーバー

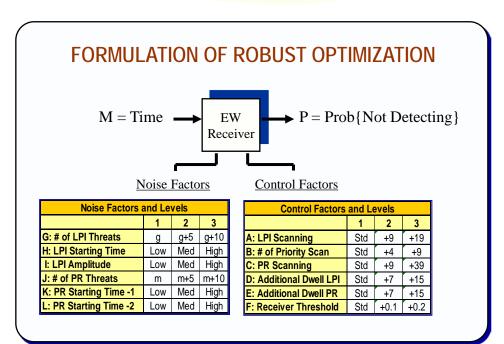




#### ソフトのアルゴリズムの最適化



理想機能:  $P = e^{-\beta T}$ 





									-	N	0	7	L	9	2	0	9	=	Ξ	12	13	Ξ	15	9	17	8
								00	-	0	(1)	eo.	-	0	00	-	CA	·	C4	co.	0.4	60		7	0	*
							_	~	-	CV.	(1)	60	-	CV	CV.	60	-	CV	(1)	-	00	-	N	-	N	C.
							¥	9	-	C/	(1)	C4	m	-	(1)	-	04	C/I	m	-	-	C/I	(2)	(2)	-	c
							~	LC.	-	e.	m	04	m	4-	4	04	(2)	0	4	C4	en	-	64	C4	0	*
							-	₹	-	C/I	(1)	-	N	(0)	CV.	(2)	-	(0)	-	O	N	60	-	00	-	С
							I	e	-	0	m	-	0	m	-	-04	en	-	C4	en.	-	N	(1)	-	0	0
							U	2	-	-	-	C4	C4	C/	m	en	02	-	-	-	O.	C4	CI	co	0	
							_	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C4	C4	CA	C4	CV	C4	CI	O	0
		Α	В	С	D	Е	F															-				
	۱.	2	3	4	5	6	7	8																		
1	1	1	1	1	1	1	1	1					$\overline{}$													Т
2	1	1	2	2	2	2	2	2																		
3	1	1	3	3	3	3	3	3																		
4	1	2	1	1	2	2	3	3																		
5	1	2	2	2	3	3	1	1																		
6	1	2	3	3	1	1	2	2																		
7	1	3	1	2	1	3	2	3																		
8	1	3	2	3	2	1	3	1																		
9	1	3	3	1	3	2	1	2																		
10	2	1	1	3	3	2	2	1																		Г
11	2	1	2	1	1	3	3	2																		
12	2	1	3	2	2	1	1	3																		
13	2	2	1	2	3	1	3	2																		
14	2	2	2	3	1	2	1	3																		
15	2	2	3	1	2	3	2	1																		
16	2	3	1	3	2	3	1	2																		
17	2	3	2	1	3	1	2	3																		
18	2	3	3	2	1	2	3	1																		

#### Result & Benefit:

Achieved a remarkable 57% reduction in detecting time under a dynamic EW environment.



#### 1999 UTA 多機能クラッチの最適化

#### **FACTORS & LEVELS**

Signal Factor Level-2 Level-3 Level-1 M: Spring Force -30% Nominal +30%

Noise Fcator	Level-1	Level-2	Level-3	Level-4	Level-5		
W: Aging	Initial	Ambient	Cold	Hot	Final		

## y=エンゲージトルク

理想機能: y = βM

M =ばねカ

ノイズ因子は新品が W1 4 段階の劣化が W2 ~ W5

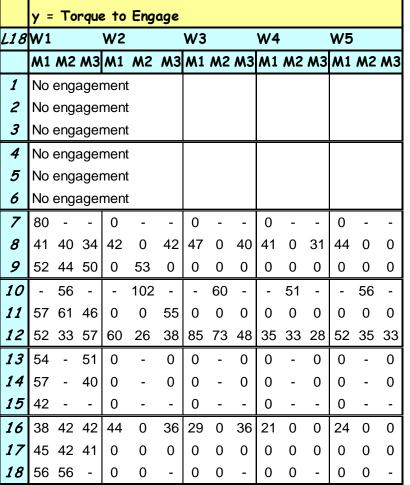
#### 制御因子:

 $6^1 \times 3^5 \rightarrow L18(6^1 \times 3^6)$ L18 の 第 2 列が空列



開発チームを説得して 計画し実行した結果が このようだった。

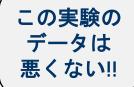
- → No.1 から No.6 は新品 でも機能せず!!
- → -はサンプルがもと から無いので欠測値
- → 0 は劣化でサンプル が 機能しなくなった





SN比を計算し て最適条件を求 めよ!!

26





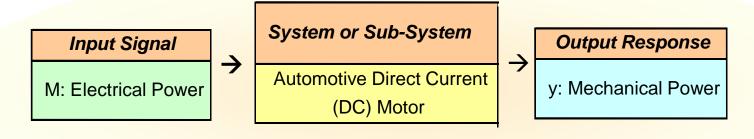


#### 2002 Nissan ウィンドーレギュレータのモーター

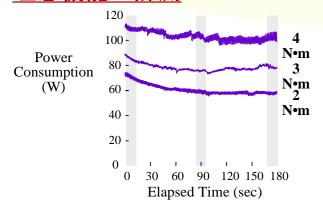
#### 品質が欲しければ品質を測るな!

#### クリエイティブなノイズの戦略





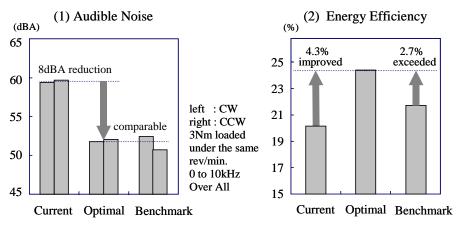
#### 理想機能の計測



#### **Noise Strategy**

	N1	N2
Motor-On Time	0 sec	180 sec

#### Figure 6. Performance Comparison with Benchmark Product

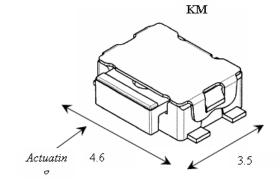




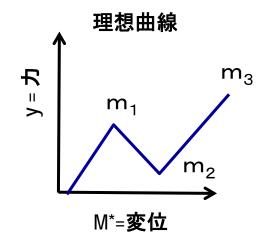
#### 2000 ITT マイクロスイッチの操作感

#### ダブル望目特性

標準SN比の登場



- □ L18によるシミュレーションを使った最適化
- □ 最初はダブル望目 (m<sub>1</sub>とm<sub>2</sub>が望目) として28db のゲインを確認。
- □ ドクター・タグチはゲインが大きすぎるのが おかしいと言う意見で、半年後に標準SN を 提案した。解析をし直したら最適条件は同じ でゲインは12db 程になった。
- □ 解析しなおした結果は発表はされていない。

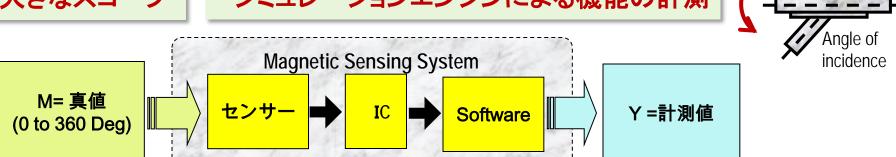


#### 2006 アルプス電気の角度センサーシステム

29

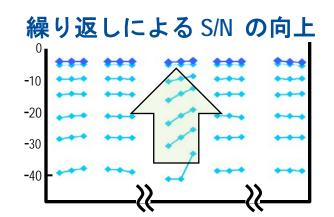
#### 大きなスコープ

#### シミュレーションエンジンによる機能の計測





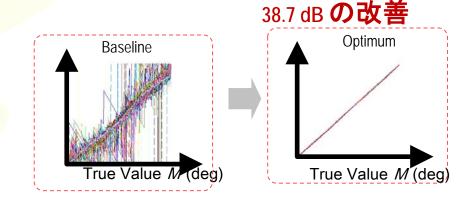
**X** 繰り返し



Magnetism

#### 網羅した設計スペースの大きさ

3<sup>48</sup> x 11 = 877,430,873,845,598,000,000,000 = 0.88 Septillion (10**の**24乗)

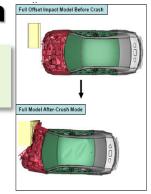


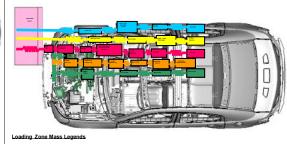
# Robust Engineering

#### 2008 Chrysler Frontal Crash

3次元フルCAE は30時間かかる バネマスモデルを作成 → 計算が10分

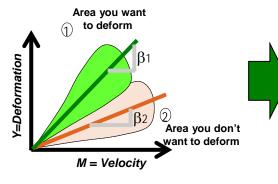
#### 動的機能窓特性



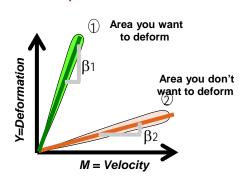


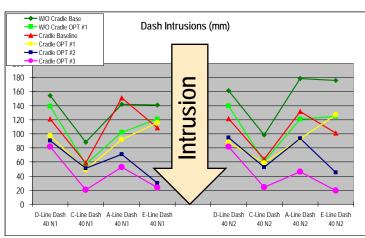
#### 動的機能窓特性の概念

#### **Before Optimization**



#### **After Optimization**





揺り籠型設計概念 → L54 iterated 5 times K-メンバー型 設計概念 → L54 iterated 5 times カムリ型設計概念 → L54 iterated 5 times

網羅した設計スペース = 3<sup>23</sup> x 3 x 5 iterations > 1,400,000,000,000



#### 技術開発の戦略とは

#### ▲先行性

製品企画前に顧客の要求機能の安定性を確保して、技術開発を先行させる。

#### ▲汎用性

特定の技術や製品ではなく、次の製品開発や同種の機能の技術や製品にも適用可能である。

#### ▲再現性

テストピースやCAEの活用で、大規模生産や市場における結果との一致性を高める。



#### 戦略としての品質工学

- □フォードは1994年、入力信号がガソリンの量で、出力がクランクシャフトをまわすトルクとして研究したが、それでは全品質問題には駄目である、それには公害の一つNOXが入っていないからである
- □エンジンの機能は化学反応である。品質工学はどんな機能でも只一つの機能でSN比と感度の研究をやることで全品質項目をよくし、しかも大幅に開発のスピードを高める方法である
- □すなわち品質工学は専門技術ではなく、技術の戦略、すなわち技略であるR&D部門の長が責任を持っていることはR&Dのすべての人の技術開発の能率化である
  - □その責任はすべての開発に共通的な能率化で、専門技術ではなく広範 な技術分野に有用な汎用的技術でなくてはならない
    - □品質工学は消費者が分かる多くの品質問題を機能毎に研究室で得られる一つの評価特性で解くことである